

一般演題 1-3

地域クリニックと連携して外来高気圧酸素治療で治癒した糖尿病性足潰瘍の治療経験

榎本光裕¹⁾ 赤松秀樹²⁾ 小柳津卓哉¹⁾
 小島泰史¹⁾ 大久保 淳¹⁾ 前田卓馬¹⁾
 宮本聡子¹⁾ 加藤 剛³⁾ 大川 淳³⁾
 柳下和慶¹⁾

- | | |
|----|------------------------|
| 1) | 東京医科歯科大学医学部附属病院 高気圧治療部 |
| 2) | あおばファミリークリニック |
| 3) | 東京医科歯科大学医学部附属病院 整形外科 |

【目的】

糖尿病の合併症である四肢壊疽は、治療に難渋すると患肢切断に至ることがある。高気圧酸素治療(HBO₂)は、難治性潰瘍を伴う末梢循環障害や骨髄炎に対して適応となっていて、糖尿病性壊疽例にも使用されている。適応疾患となるガス壊疽は、糖尿病を基礎疾患にして起こることも多く、壊疽後に下肢切断に至る例は比較的多い。大部分の症例で入院治療を要するが、今回、地域クリニックと連携して外来高気圧酸素治療併用で治癒した糖尿病性壊疽足の症例を経験したので報告する。

【対象】

61歳の男性、特に誘因なく左足背の発赤が出現し、1週間後に近医クリニックを受診した。既往症はなかったが、血糖値462mg/dLと高血糖状態でHbA1cは11.1%であった。同日から抗菌薬の点滴を開始したが、足背皮膚は水泡を形成し、黒色変化を伴って4病日に伸筋腱が露出した。4日間の抗菌薬点滴、処置を継続し、病状が比較的安定した40病日に当院へのHBO₂依頼があって受診した。

【結果】

レントゲン所見に異常はなく、Wagner 分類はGrade 2であった。足背動脈は触知不能であったが、後脛骨動脈は触知可能であった。直径2cm程度の潰瘍で伸筋腱が露出していた(写真1)。HBO₂施行に禁忌所見はなかった。自宅から当院まで15kmの距離があったが、通院意欲もあって週3回のHBO₂を開始した。その間、紹介先クリニックでの定期的な創処置、血糖コントロールが行われた。HBO₂20回で創部内の肉芽形

成が良好となった(写真2)。HBO₂40回で伸筋腱が肉芽組織で覆われるようになった。HBO開始から4か月、総治療回数は53回で治癒した(写真3)。

【考察】

2012年糖尿病性潰瘍・壊疽ガイドラインでHBO₂は、良質な根拠はないが選択肢の一つとして推奨されている。ただし、この治療装置を保有する医療機関は多くなく、すべての施設で行える治療ではないと記載されている。しかし、一人用装置は比較的多く設置されており、HBO₂自体の認知度が低い可能性がある。重症度の比較的低い糖尿病性壊疽に対しては、HBO₂に対する患者理解と地域医療機関との連携によって有効な外来治療を確立できる可能性がある。



写真1 HBO開始9日(5回目)



写真2 HBO開始51日(23回目)



写真3 HBO開始120日(53回目)